

インターネットでがんに関する情報を集める人が増えています。しかし、ネット上にあるがん関連の情報は良いものと悪いものが入り交じり、誤った情報や誤解を生むような宣伝も多く見かけます。最近では、不正確な医療情報が記載されているとの指摘を受けて、ディー・エヌ・エー（DENA）の医療情報サイトが一昨年に閉鎖されたのが記憶に残っています。

ネットで「肺がん」を検索すると、上位50番目までの表示結果のうち、正しい内容を紹介したサイトは半分以上だったという調査もあります。残念ながら、がん治療については怪しいサイトがまだまだ少なくありません。がん治

## がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

# 玉石混交危ういネット情報

した。

同様に、携帯電話の使用やWiFiを含む電磁波は発がん性を裏付ける十分な科学的証拠は得られていませんが、それぞれ35%、23%の人たちが、がんの原因になると回答しました。

一方、アルコールと加工肉が発がんの原因になり得ると答えた人はそれぞれ41%、24

がんと診断されるケースの半分近くが生活習慣によるものですから、発がんに関する正しい認識を持つことは非常に大切です。たばこを吸わない、お酒は1合まで（これは難しい）、塩分を控えたバランスのよい食事、運動など活動的な暮らし、体形の維持がポイントです。

逆に、これら以外は科学的な根拠はほとんどありませんから、たとえば、無農薬野菜やサプリメントにこだわる必要はまずないといえます。

中学、高校の学習指導要領に加わった「がん教育」でも、予防は重要なテーマです。大人にも正しい知識が広がることを期待しています。

（東京大学病院准教授）

療は一種の情報戦で、正しい情報を手に入れられるかどうかがとても重要になりますから大きな問題です。

がん予防という点でもネットの悪影響の可能性が指摘さ

れています。英国で一般人1330人を対象に実施された調査では、対象者の3分の1以上が「食品添加物と遺伝子

組み換え食品はがんの原因になる」と誤って認識していま

%にとどまりました。回答者の88%は喫煙ががんの原因となることを正しく理解していましたが、がんの原因について誤解がある人ほど喫煙率が

高いことも分かりました。